

5年生学習定着度に関する調査結果について

本年度は9月に「学習定着度に関する調査」が実施されました。その結果とそれを受けた取り組みについてお知らせします。

調査の目的は、児童の学力の状況をきめ細かく把握・分析することにより、教育の成果と課題を明確にし、学力向上の取り組みを充実させることにあります。調査の内容は、教科に関する調査（国語，算数）です。

○…よかった項目 ●…課題があった項目

【 国語：福岡市平均と同程度である。 】

○ 書く力（文章）

● 読む力，言語についての知識・理解・技能

言語についての知識・理解・技能，読むこと（文学的・説明的文章），話すこと・聞くこと，書くこと，すべての評価項目について，福岡市の平均と同程度であるという結果が出ました。日頃の読書活動，普段の学習での積み上げの成果が現れてきたと考えます。しかし，言語や漢字，説明文を読むことについてはやや課題がみられました。このことは漢字においても練習した読み方や使い方だとはできますが，読み方が変わったり，文章の中で問われたりすると難しいようです。日頃から学校生活の中でも，全校の漢字力テストを適宜取り入れ，慣用句なども意識して使うようにするなど指導していきます。また，読書の時間を活用して説明的文章や，新聞記事など読むことの幅を広げ，読むことに対する関心を高めていきます。

【 算数：福岡市平均と比べ努力を要する 】

● 数量や図形についての知識・理解

● 数学的な考え方

「小数・分数の計算」「何倍かを求める文章題」「グラフの読み取り」「場面を式に表す」「図形の辺の長さ，およその数」については福岡市のほぼ平均でした。課題が見られたのは「単位換算」「数の構成」「概数」「数の大小」「図形の面積・体積」「場面を式に表す，図形の辺の長さ，およその面積」でした。今年度福岡市平均と大きく差が出たのは「三角定規の角・平行と垂直」「合同な図形」でした。基礎的な計算については理解できていますが，図形の求積等にその力が生かせていないことが分かりました。図形の公式をいつでも言えるようにすることと，文章題に数多くあたり，問われていることを的確に読み取ることに力を入れていきます。